

証券コード：4406（東証スタンダード）

2022年3月期

決算説明会資料



2022年5月25日

代表取締役 社長執行役員
三浦 芳樹



本日の内容

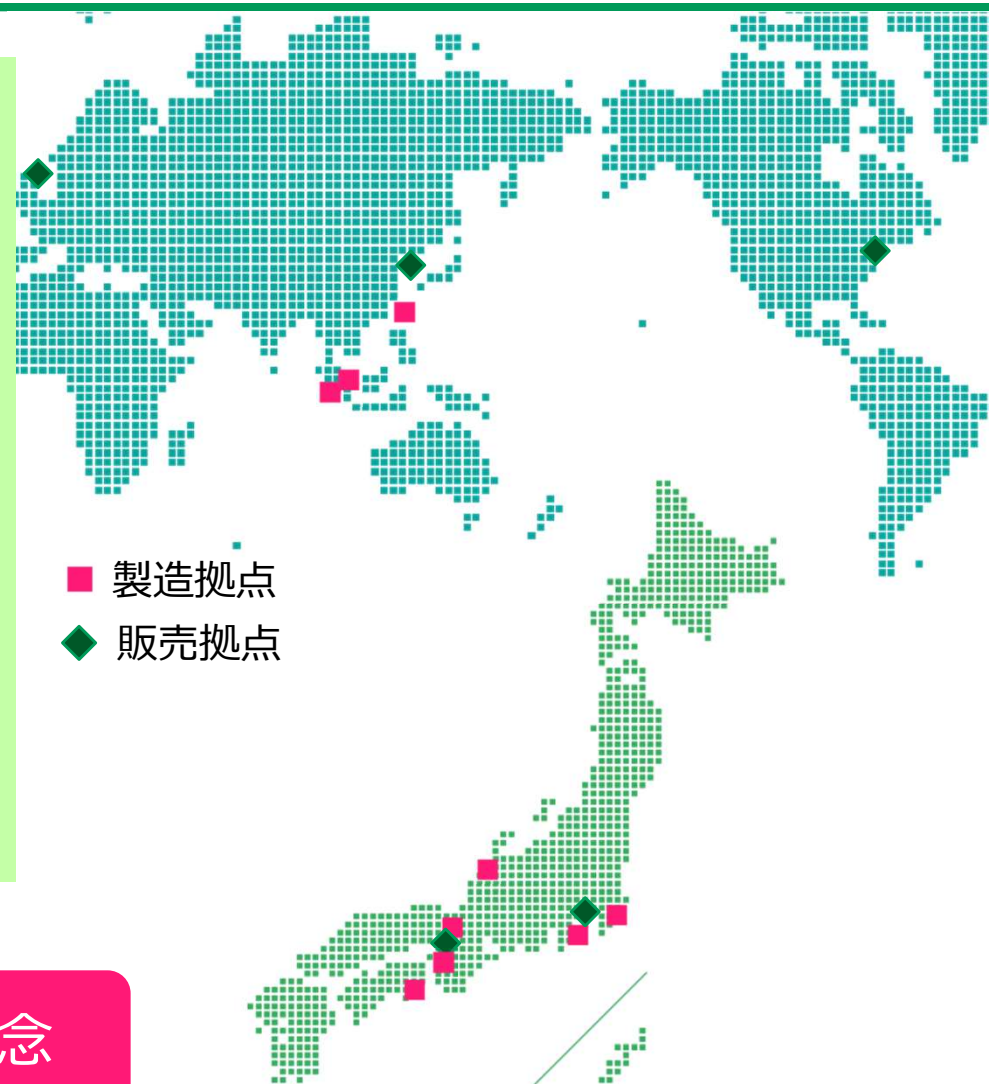


- 会社概要
- 2022年3月期 決算概要
- 2023年3月期 業績予想
- 中期経営計画の進捗状況
- カーボンニュートラルへの取組み



新日本理化株式会社

- 創業：1919年（大正8年）11月10日
- 資本金：5,660百万円
- 従業員数：433名（連結）[2022年3月末]
- 事業内容：化学製品の製造・販売
- 営業所：大阪（本社）、東京
- 工場：京都、徳島、川崎、堺
- 研究所：京都
- 関係会社：国内4社、海外6社



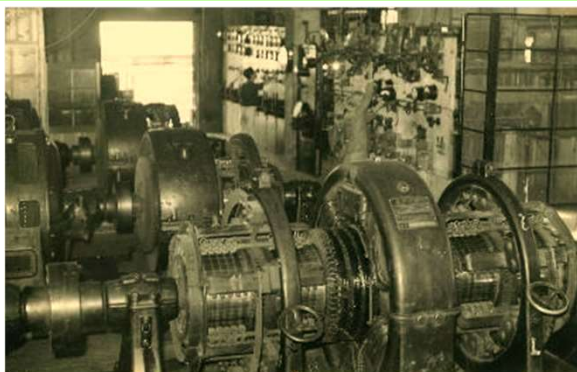
経営理念

私たち新日本理化グループは、もの創りを通して広く社会の発展に貢献します。

新日本理化のあゆみ

1920年

水の電気分解により製造した酸素ガスの販売を開始

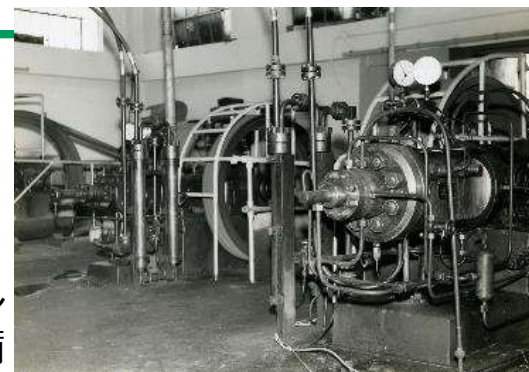


創業時の直流発電機

1951年

高級アルコール製造設備

ヤシ油を水素化して高級アルコールを製造、可塑剤事業スタート



1961年

水素化技術を活用して無水コハク酸を製造（日本初）

1922年

魚油に水素を添加して硬化油を製造、今日につづく水素化技術の始まり



硬化油工場

新日本理化のあゆみ

1982年

ポリオレフィンの透明性を改良する
結晶核剤を開発、
機能性化学品事業に進出



ポリオレフィン製容器



1993年

植物系（ヤシ油・パーム油）の
不飽和アルコールを開発

パーム油

2001年

HDDのモーター向けの潤滑油を開発、
高付加価値製品の強化へ



内臓HDD

2019年

創業100周年を迎える

当社の事業内容

原料

天然油脂
(ヤシ油、パーム油)

石油由来原料
(ナフサから
得られる基礎化学品)

製品分野 (主な製品)

オレオケミカル

アルコール
界面活性剤

可塑剤

耐熱性可塑剤
耐放射線可塑剤

合成樹脂原料

ポリエステル原料
エポキシ樹脂硬化剤

機能性化学品

結晶核剤 潤滑油
ポリイミド

主な使用分野

トイレタリー



化粧品



自動車



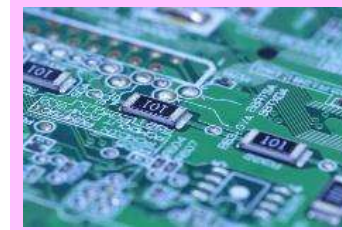
住宅設備



医療器具



電子製品



本日の内容



- 会社概要
- 2022年3月期 決算概要
- 2023年3月期 業績予想
- 中期経営計画の進捗状況
- カーボンニュートラルへの取組み



2022年3月期 決算概要（連結）

- 売上高 : 原料価格の高騰を受けた価格改定により増加。
- 営業利益 : 売上高の確保および高付加価値製品の拡販により増加。
特に、医薬品原料や光硬化樹脂原料が好調に推移。

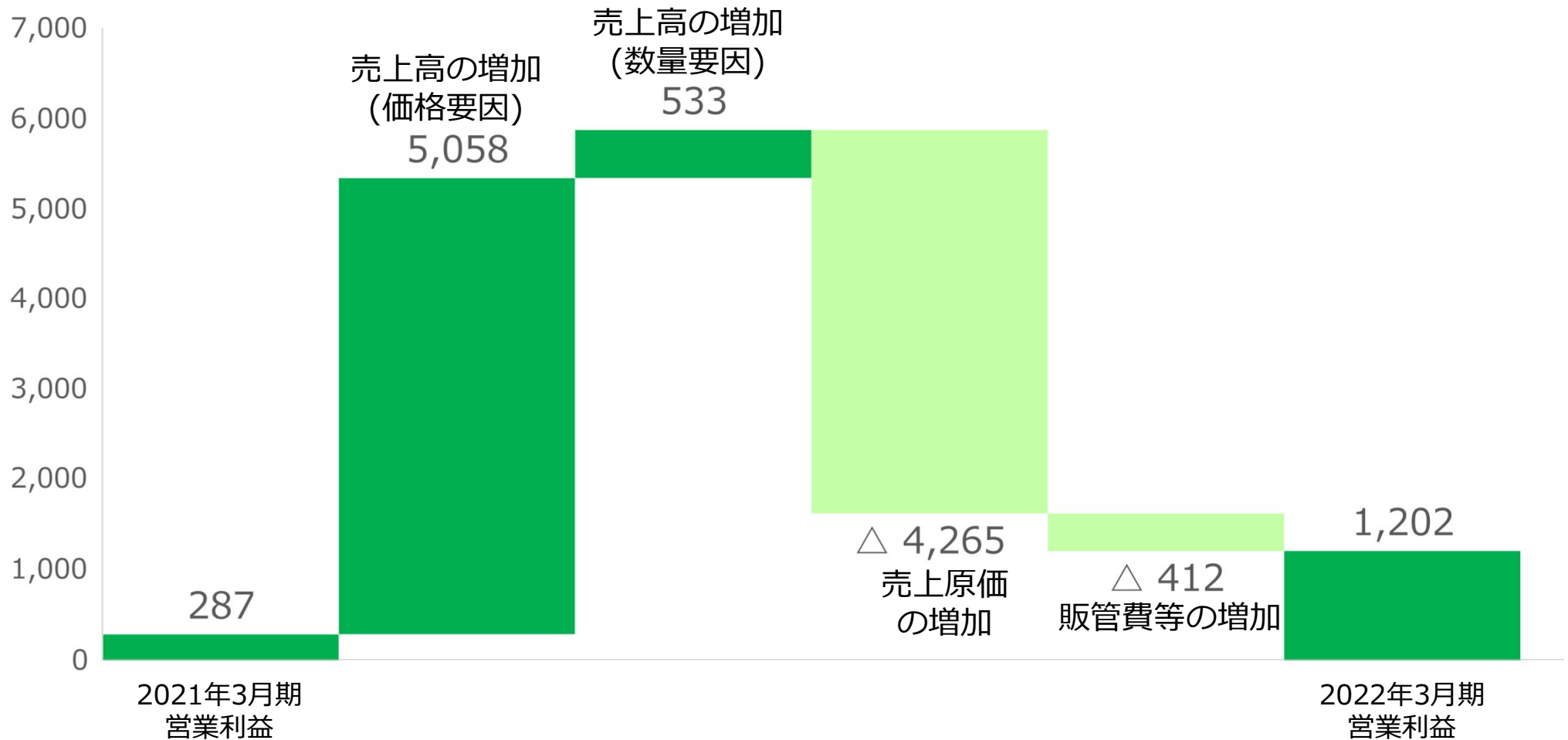
単位：百万円

| | | 2021年3月期 | 2022年3月期 | 前期比較 | |
|----|---------------------|----------|----------|--------|-------|
| | | | | 増減額 | 増減率 |
| 連結 | 売上高 | 24,437 | 32,358 | +7,920 | +32% |
| | 営業利益 | 287 | 1,202 | +914 | +318% |
| | 経常利益 | 706 | 1,589 | +883 | +125% |
| | 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 501 | 811 | +309 | +62% |
| | 一株当たり 当期純利益 | 13.46円 | 21.76円 | +8.30円 | +62% |

営業利益の増減要因（対前期）

- 原料価格の高騰を受け、製品への価格転嫁を進めたことに加え、モビリティ向け光硬化樹脂原料の販売が伸長したことなどによる数量要因の増加により、営業利益は前期末に比べ大きく増加。

(単位：百万円)



営業外損益・特別損益

- 持分法による投資利益の計上などにより、営業外損益は+ 3億8千6百万円。
- 製造販売を終了した製品にかかる固定資産を減損計上したことなどにより、特別損益は△ 6億5千8百万円。

(単位：百万円)

| 営業利益 | 1,202 | 営業外損益 | | | |
|---------------------|-------|----------|----------|------|------|
| 営業外損益 | 386 | 2021年3月期 | 2022年3月期 | 増減額 | |
| 経常利益 | 1,589 | 受取利息・配当金 | 138 | 148 | + 9 |
| 特別損益 | △ 658 | 支払利息 | △ 42 | △ 44 | △ 2 |
| 法人税等 | △ 49 | 持分法投資利益 | 244 | 179 | △ 65 |
| 少数株主損益 | △ 69 | その他 | 76 | 103 | + 26 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 811 | 合計 | 418 | 386 | △ 31 |

| | | 特別損益 | | | |
|--|--|-----------|----------|-------|-------|
| | | 2021年3月期 | 2022年3月期 | 増減額 | |
| | | 投資有価証券売却益 | 162 | 63 | △ 98 |
| | | 投資有価証券売却損 | - | △ 195 | △ 195 |
| | | 減損損失 | △ 169 | △ 515 | △ 346 |
| | | 固定資産除却損 | △ 18 | △ 11 | + 7 |
| | | 合計 | △ 25 | △ 658 | △ 632 |

(単位：百万円)

連結貸借対照表

- 原料価格の高騰を受けた製品価格の改定により、売掛金（流動資産）および買掛金（流動負債）の残高が増加。

単位：百万円

| | 2021年3月期 | 2022年3月期 | 増減額 |
|---------|----------|----------|--------|
| 総資産 | 35,886 | 40,086 | +4,199 |
| 流動資産 | 16,449 | 21,329 | +4,879 |
| 固定資産 | 19,437 | 18,757 | △ 680 |
| 負債 | 19,670 | 23,086 | +3,415 |
| 流動負債 | 11,613 | 13,549 | +1,936 |
| 固定負債 | 8,057 | 9,536 | +1,479 |
| 純資産 | 16,216 | 16,999 | +783 |
| 負債純資産合計 | 35,886 | 40,086 | +4,199 |
| 自己資本比率 | 42.4% | 39.8% | - |

キャッシュ・フロー

- 投資活動によるCFの支出は、京都R&Dセンター建設費用の支払などによる。
- 財務活動によるCFの収入は、京都R&Dセンター建設資金の借入などによる。

単位：百万円

| | 2021年3月期 | 2022年3月期 |
|---------------------|----------|----------|
| 営業活動によるCF | 1,253 | 1,078 |
| 投資活動によるCF | △ 1,707 | △ 1,602 |
| 財務活動によるCF | 519 | 861 |
| 現金及び現金同等物の増減額（△は減少） | 67 | 340 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 2,988 | 3,329 |

本日の内容



□ 会社概要



□ 2022年3月期 決算概要



■ 2023年3月期 業績予想



□ 中期経営計画の進捗状況



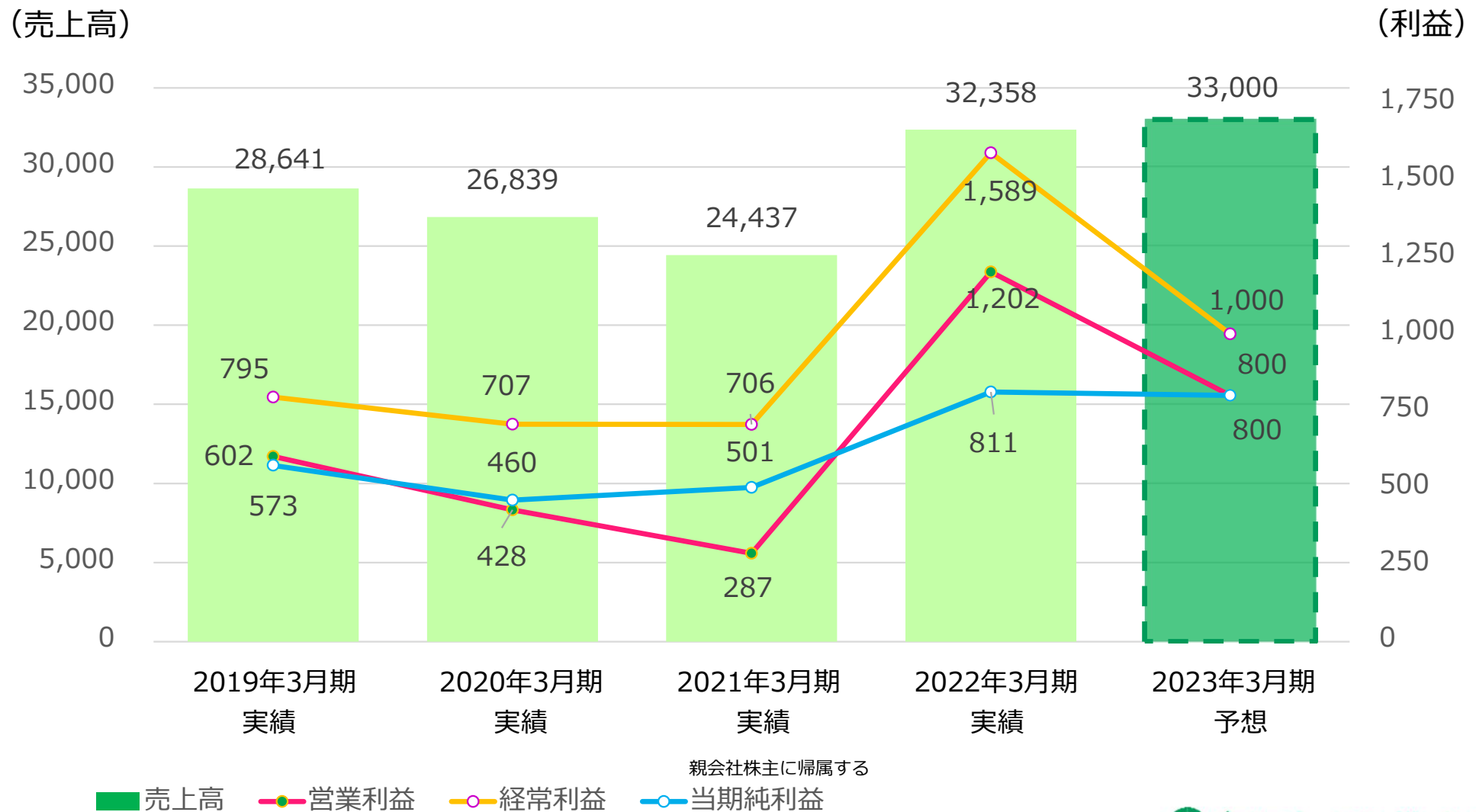
□ カーボンニュートラルへの取組み



2023年3月期 業績予想 (連結)

■ 2023年3月期は、売上高330億円、営業利益8億円を見込む。

単位：百万円



2023年3月期 業績予想（連結）

- 原料価格の高騰が続くと予想されるなか、原料調達難や物流網混乱のリスクを最小限に留めるべく、サプライチェーンの見直しを進める。
- ウィズコロナ・ポストコロナ時代における市場の変化に機敏に対応し、既存事業の強化と新たな需要の取り込みに注力する。
- 中期経営計画に沿った事業基盤の強化を進める。

単位：百万円

| | | 2022年3月期 | 2023年3月期 (予想) | 当期比較 | |
|----|---------------------|----------|------------------|-------|--------|
| | | | | 増減額 | 増減率 |
| 連結 | 売上高 | 32,358 | 33,000 | + 641 | + 2% |
| | 営業利益 | 1,202 | 800 | △ 402 | △ 34% |
| | 経常利益 | 1,589 | 1,000 | △ 589 | △ 37% |
| | 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 811 | 800 | △ 11 | △ 1% |
| 配当 | 期末配当金(円) | 5.0円 | 5.0円 | - | - |
| | 配当性向(%) | 23.0% | 23.3% | - | + 0.3% |

本日の内容



□ 会社概要



□ 2022年3月期 決算概要



□ 2023年3月期 業績予想

■ 中期経営計画の進捗状況

□ カーボンニュートラルへの取組み



VISION 2030 ～2030年のありたい姿～



Be the best **SPICE!**

～心躍る極上のスパイスになる～

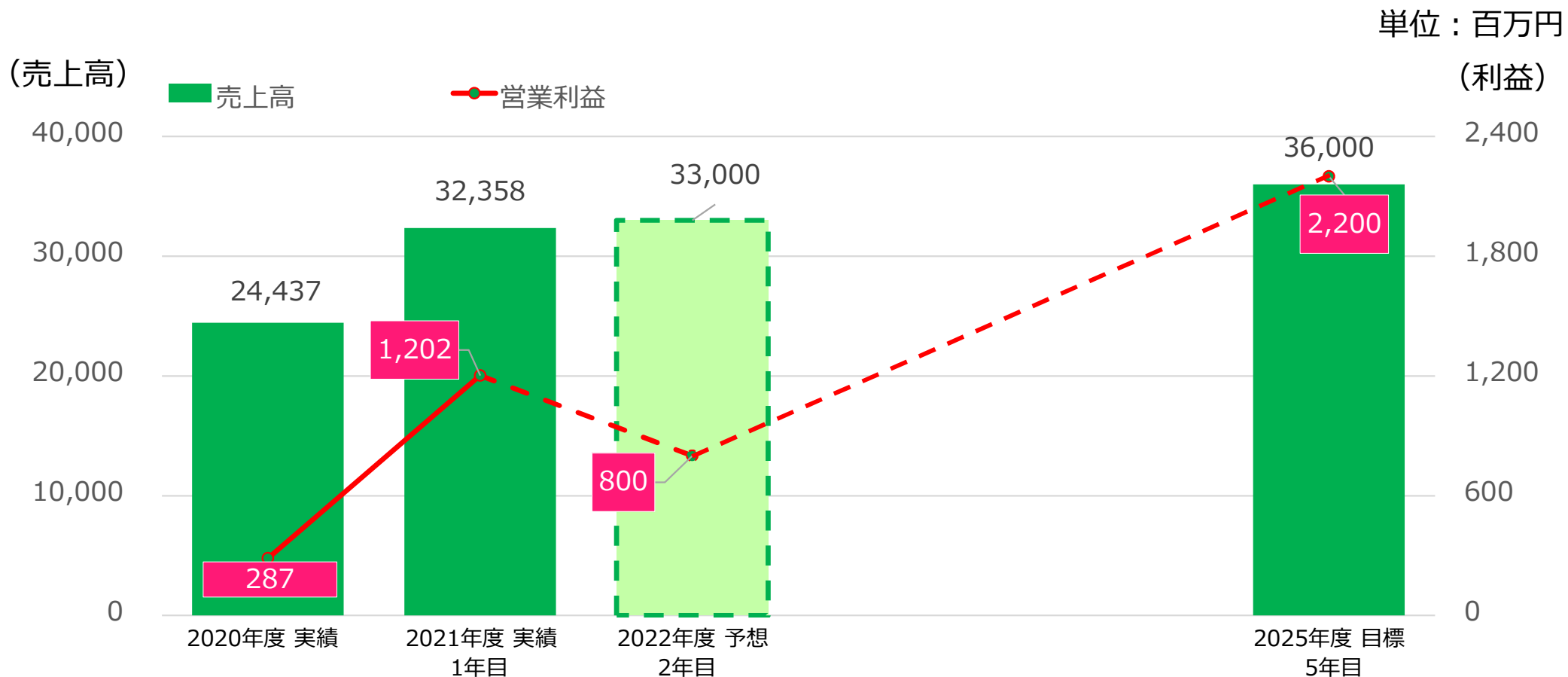
キラリと光る唯一無二の個性をもった素材のスパイスで、
世界をより、健やかで豊かなものに、
毎日をもっと、心ときめくものに。

中期経営計画（2021～2025）

- VISION 2030の達成に向けた直近5カ年（2021年度～2025年度）の具体的な戦略。
- 2025年度に **売上高：360億円、営業利益：22億円、ROE：8.0%**（連結）を達成し、2026年度以降の飛躍につなげる。

中期経営計画の進捗状況

- 原料価格高騰の影響を大きく受け、売上高は増加。
- 中期経営計画の着実な遂行により、利益構造の改革を目指す。



| 連結 | | 2020年度 ＜計画前実績＞ | 2021年度 ＜1年目実績＞ | 2025年度 ＜目標＞ |
|----|-----|-------------------|-------------------|----------------|
| | ROE | | 3.5% | 5.2% |

中期経営計画の進捗状況

事業戦略① 稼ぐ力の再構築

- 事業ポートフォリオの改革（攻）に着手するとともに、リスク対応（守）を急ぐ。

事業ポートフォリオ改革

- ウィズコロナ時代における市場の変化を捉え、事業の最適化を目指す。
→4つの重点領域への製品投入を加速。

情報・通信

- ◆高耐熱・溶剤溶解型
ポリイミド
- ◆HDDのモーター
向けの潤滑油

モビリティ

- ◆自動車部材・塗料
向けの樹脂原料

ライフサイエンス

- ◆医療器具向けの
結晶核剤
- ◆医薬品原料

環境

- ◆バイオマス可塑剤
- ◆植物由来エステル油

リスク対応の強化

- 感染症のまん延や国際情勢の変動により、原材料調達・物流面のリスクが増大。
→サプライチェーンの見直しを進め、柔軟かつ強固な事業基盤を確立する。

中期経営計画の進捗状況

事業戦略② 技術革新による競争優位の獲得

- パートナーとの共創とデジタル化の推進で、イノベーション創出の基盤を作る。

オープンイノベーション推進

- 多様なパートナーとの共創の場として「京都R&Dセンター」を2021年5月にオープン。
- 大学・他企業との共同開発、技術顧問の招聘などを通じて、自前主義からの脱却を進める。



デジタル化の推進

- 製造、営業、管理の各部門でデータ活用による業務改善を進める。データ活用を全社に浸透させ、DXを可能にする素地をつくる。
- マテリアルズ・インフォマティクスを活用した素材開発を検討中。

中期経営計画の進捗状況

事業戦略③ CSRの推進

- 価値創造企業になるための重要課題を特定。各項目にKPIを設定し取組みを加速。

| | 重要課題 | 主な取組み |
|---|-----------------------|------------------------|
| E | カーボンニュートラルの実現 | CO2排出量削減、バイオマス製品の開発 |
| | 資源（水・燃料）の有効利用 | リサイクル推進、廃棄物の削減 |
| | 人・環境にやさしい製品の拡充 | 環境負荷低減に貢献する製品の拡充 |
| S | 人権の尊重 | 企業風土改革、内部通報制度の運用改善 |
| | 多様な人材の育成と確保 | 評価制度改革、教育制度の拡充、キャリア採用 |
| | 安全で働きやすい職場づくり | 健康経営、ゼロ災害、活力ある職場づくり |
| | サプライチェーンマネジメント | CSR調達の推進、原料調達におけるBCP構築 |
| | 地域活性化への貢献 | 地域社会への貢献活動推進 |
| G | ステークホルダーエンゲージメントの実践 | 対話の促進、開示情報の充実 |
| | リスクマネジメントの徹底 | リスクマネジメント体制の構築 |
| | 迅速果断な意思決定を支えるガバナンスの構築 | 取締役会の実効性向上、役員報酬制度見直し |

中期経営計画の進捗状況

事業戦略④ 組織再編と人材育成の強化

- 制度改革と人材多様化を加速。成長の源泉となる人材に積極的に投資していく。

人材育成プログラムの拡充

- 次世代経営層の候補者育成のため、選抜型研修を導入。
- 階層別教育に公開型セミナーを導入。他社との交流で成長意欲を促す。

人事制度改革

- 人事評価制度を刷新。挑戦する人材を評価し、チャレンジ精神を醸成する。

D&I推進

- 異業種でキャリアを積んだ人材や女性の採用を拡大。
- 女性の管理職登用に向け育成を強化。

多様な働き方

- フレックスタイムの適用職種を拡大し、コアタイムも廃止。
- 在宅勤務制度を導入。



- 会社概要
- 2022年3月期 決算概要
- 2023年3月期 業績予想
- 中期経営計画の進捗状況
- カーボンニュートラルへの取組み

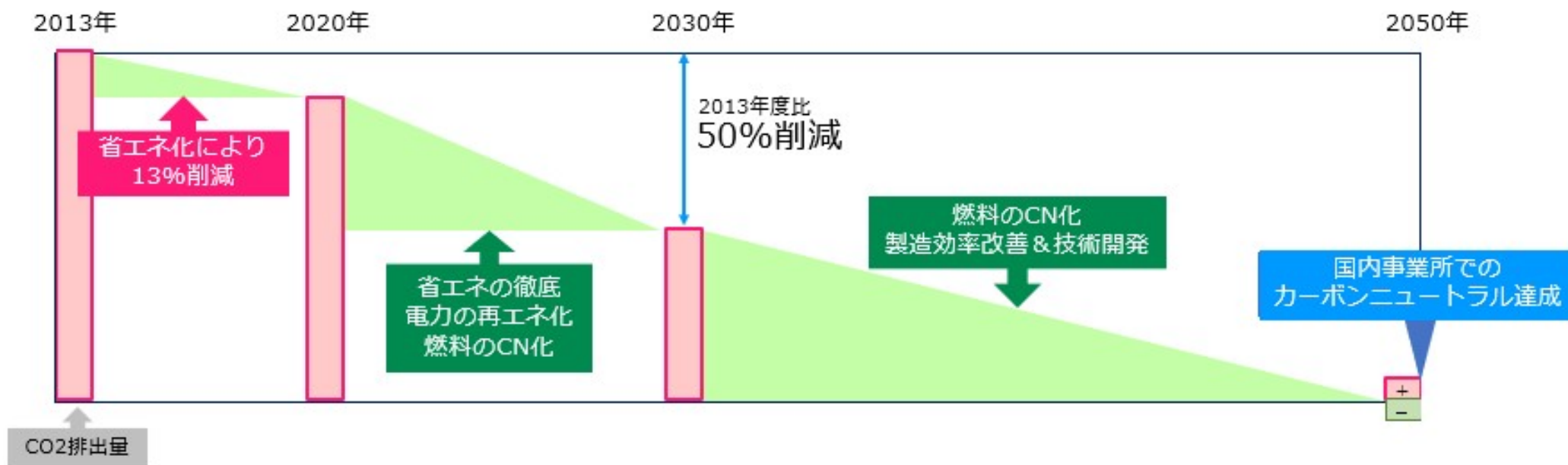


カーボンニュートラルへの取組み

カーボンニュートラル実現に向けた目標

2030年度までに国内事業所からのCO2排出量50%削減（2013年度比）
2050年度にはカーボンニュートラルを達成する。

目標達成に向けたロードマップ



カーボンニュートラルへの取組み ～Scope1+2

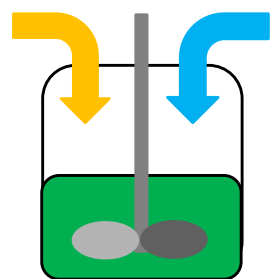
製造時のCO2排出量削減

- 2030年度までに、国内事業所で使用する電力をすべて再生可能エネルギーに切り替える。
- 工場で使用する燃料ガスをカーボンニュートラルなものに切り替える。
- 製造プロセスの見直しによりエネルギー効率を向上させる。

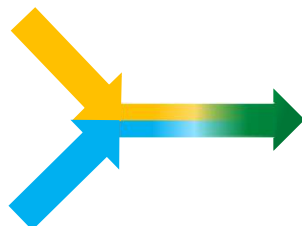
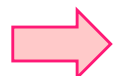
◆2022年度◆

京都工場で使用する電力・燃料ガスを、再生可能エネルギーへ転換。

製造プロセスの見直し バッチからフローへ



バッチプロセス



フロープロセス

酸化反応に「フロー反応方式」を導入。
従来のバッチプロセスに比べ、

反応時間
1/3

廃水量
1/3

副反応
抑制

カーボンニュートラルへの取組み ～Scope3

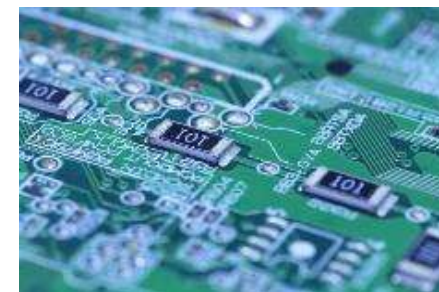
製品の環境負荷低減

- ▶ パーム油などを主原料に用いた可塑剤やエステル油など、非石化製品の開発と需要開拓を進める。
- ▶ 樹脂の軽量性や成形サイクル性を向上させる添加剤など、お客様が当社製品を使用する際のCO2排出量削減に貢献する事業を拡大。

環境配慮型の製品 ポリイミドワニス



多層プリント基板の製造時に使用される工程用部材に当社のポリイミドワニスを採用。
従来品と比べ高温下での繰り返し使用を可能とした。



耐久性
向上

生産性
向上

エネルギー
消費低減



Be the best SPICE!

～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二のスパイスで、
世界を健やかで豊かなものに、毎日を心ときめくものにしたい。

もの創りの会社、新日本理化は、
これからも広く社会の発展に貢献してまいります。

本日は、ご清聴いただきありがとうございました。

【お問い合わせ先】

新日本理化株式会社 経営企画部

<https://www.nj-chem.co.jp/>





新日本理化株式会社



Be the best **SPICE!**